

ハイキングクラブ（近畿）燦歩会 9月例会を休止します 2022.09.14

新型コロナの第7波。行動制限も緩和されて、多くのイベントに観客が詰めかけています。しかし感染者は非常に多く、高齢者の割合も大きく、亡くなる方も少なくありません。Zoom 役員会で相談した結果、もうしばらく様子を見ようという事になりました。

- ① 9月例会は休止します。
- ② 10月以降は感染状況を考慮し、実施の可否を判断します。
10月例会は懸案の「信楽高原鉄道に乗って陶芸の森を訪ねる」を計画しています。
- ③ 会員金森光男さんが亡くなりました。
巧みな踊りで、座の盛り上がることしばしばでした。 ご冥福をお祈りします。

* * * * *

本編がないのに、いつもの蛇足で失礼します。

◎平城宮大極門（だいごくもん）の完成

2019年4月の燦歩会例会、私たちは奈良市北部の古墳群を尋ね歩いて、最後に平城宮跡に着きました。

その時の“ほぼ全員”写真です。あたかも建物の前で撮影しているかのように見えますが、これはフェイクです。鉄骨の須屋根に完成図が懸けられていたのです。いわば巨大な書割ですね。中にはまだ建物の土台しかありませんでした。



その建物が、今年3月完成しました。

平城宮跡の主要部「大極殿院」の南門です。この門の名前は記録になく、今回「大極門」と名付けられました。門の右側に鉄骨の須屋根が残っているのは、引き続き、付属の建物「東楼」の復元工事が行われるためです。



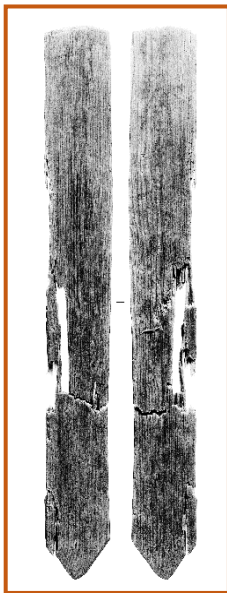
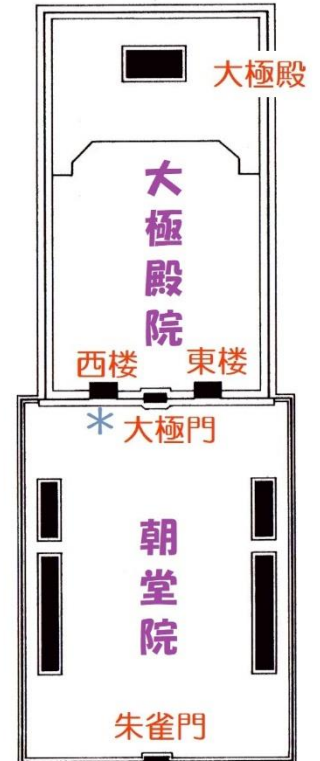


門の奥に小さく見える大極殿（だいくくでん）は2010年に復元されたものです。二つの建物の間はおよそ300m。この広場で、即位の式典や元日の朝賀（年始の挨拶）、外国使節の接遇など、国としての儀式が行われました。そしてこの大極門から、南の「朱雀門（すざくもん）」までの間が、高官たちの集う朝堂院、周囲に行政のための諸官庁が設けられたのです。

◎和銅3年木簡の謎

大極門の左右には、図のように回廊が巡らされ、付属の東楼・西楼が立ち並んでいました。「大極殿院南面回廊」です。

2001～2年の調査で、図の*のあたり、回廊の土台部分から、14点の木簡が発掘され、その中の一つが重大な意味を持つことが分かってきました。「和銅3年」の年紀のある木簡です。



奈良文化財研究所の木簡のデータベース「木簡庫」には5万6千点に及ぶ木簡が登録されていますが、これがその「和銅3年」の木簡です。右が表面、左が裏面です。下端は差し込むためでしょう。尖っています。長さ200mm、幅24mm、厚さ4mm、ささくれ立ち、一部折れています。

私たちにはわかりませんが、墨で書かれた文字が解読されています。（表）「伊勢国安農郡阿口（刀カ）里阿斗部身」、（裏）「和銅三年正月」の文字です。

年紀は当初「三月」と読まれていましたが、保存処理後の精査で、「正月」と確認されたそうです。それほどにかすかで微妙な痕跡なのでしょう。「阿斗部」の地名は今も三重県津市に「跡部」として残っています。

伊勢国は朝廷に海産物を貢納する「御食つ国（みけつくに）」の一つでもありました。木簡は荷札として、何か海の産物に付けて一緒に運ばれてきたのかもしれませんが。当時伊勢～平城京は4日の行程でした。荷札は役目を終えて不要になり、他のごみと一緒に無造作に捨てられたのでしょう。重大な意味を持つのは、その捨てられた場所です。

木簡が、回廊の土台に埋もれていたという事は、その時回廊はまだ出来ていなかったことを意味します。地ならしの作業中だったろうと考えられています。木簡を含むゴミも、その地ならしに使われたのかもしれませんが。

ここが、この木簡の肝、大げさに言えば、歴史の動かぬ証拠なのです。

「和銅3年正月」という裏面の年紀、この年を西暦で覚えている方もおられるでしょう。「♪ 7-1-0 ないれい南都平城京=710年平城京遷都の年」です。元明天皇（げんめい

てんのう)は、3月に藤原京からこの平城京に遷都してきます。でも、ピカピカに出来上がった新都に越してきたのではないようです。儀式の場所大極殿院はまだ整地したばかりで、完成には程遠い状況だったという訳です。この木簡が大極殿院の下から発掘されたことで、当時まだ「工事中」だったことが、はっきりしたのです。

ちなみに、大極殿が記録にあらわれるのは、5年後の715(和銅8・霊龜元)年の「元日朝賀」で、大極殿はその少し前に完成したものと考えられています。「続日本紀」は、その有様を記しています。

「春正月1日 天皇は大極殿に出御して、官人の朝賀を受けられた。皇太子は初めて礼服を着て朝賀に列した。…儀式には、朱雀門の左右に、楽隊と騎兵を並ばせた。元日の儀式に鉦や鼓を用いることはこの時から始まった。…東方の空にめでたい雲が現れ…」
晴れ晴れとした華やかな新年。 礼服を着た皇太子とは後の聖武天皇です。この時15歳、前の年に立太子して初めての朝賀の儀式。空には瑞雲もたなびき希望にあふれた新春です。

この時、あの「和銅3年」の木簡は、大極殿南面回廊の土台の下で、永い永い眠りに就いていました。 目覚めるのは、それから1286年後の事です。

ご案内

旧友会員の方、職員の方、入会大歓迎です。メンバーは現在33名です。
入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、毎月第4日曜日に歩いています。

今後の予定は、

◎天理軽便鉄道跡を歩く(奈良) ◎浪花文学散歩(大阪) の他、 ◎五花街を巡る(後半)(京都) ◎寿長生(すない)の郷(滋賀) ◎京都トレイル(第5回)などです。

ただし、コロナの推移に合わせて、柔軟に対応して行きます。

参加ご希望の方は、会務担当 山村恵一にご連絡下さい。

(電話：090-1484-4403、メール：y-yamamura@ares.eonet.ne.jp)

コロナに注意しながら、一緒に気軽に楽しく歩きましょう。 (写真・文 生島 幸弥)